

鈴木有郷牧師説教

### 10/03/10 三人目の召使いは何故叱られたのか？ マタイ 25:14-30

日米合同教会は、毎年10月を、私たちの賜物を神に捧げることの大切さをあらためて認識する、奉仕・献金強調月間と定めています。今日はその最初の日曜日です。

賜物を捧げるということの意味を理解する上で、今日読んで頂いた3人の召使いの譬えが重要なヒントを与えてくれています。

ある主人が長旅に出かけます。彼は三人の召使いを自分の下に呼んで、一人には5000タレント、一人には2000タレント、そしてもう一人には1000タレントを渡して言います。「私が旅に出ている間に、そのお金をできるだけ増やしなさい。」

長旅から帰った主人は、3人の召使いを呼び寄せ、預けておいたタレントを彼らがどのように増やしたかを調べます。

5000タレントを預けられた召使いは、1万タレントに増やしたと報告します。2000タレントを預けられた召使いは、4000タレントに増やしたと報告します。主人は喜び、二人を誉めてあげます。

しかし三人目の、1000タレントを預った召使いは、そのお金を土の下に埋めて増やそうとはしませんでした。主人は怒り、彼を厳しく叱責した、というのがこの譬えの概要です。

つまり、二人の召使いは主人に忠実であり、三人目の召使いは主人の命令を全く無視してしまったのです。あなたはこの三人のうちのどの召使いにあたると思うか。これがこの譬えの私達に対する問いかけです。

私たちは様々な賜物を預けられています。時間もそうです。お金もそうです。能力もそうです。才能もそうです。やる気もそうです。これらの賜物を神の栄光のために用いること。これがクリスチャンにとって人生の最大目的です。

この目的を前にして、私たちはよく言い訳をします。「捧げたいのは山々だけれど、私の能力は余りにも貧しく、才能もなく、お金もありません。割く時間も乏しい状態です。」私たちは三人目の召使いになりがちです。

そういう時、思い出してみましよう。主イエスが5000人の群衆に食べ物を与えたというヨハネの福音書に記されている物語です。

主イエスの言葉を聞こうと、5000人程の群衆が彼の周りを囲みます。皆お腹を空かしています。一人の少年が持っていたお弁当を差し出します。5匹のパンと、2匹の魚です。それを皆で食べてほしいと言うのです。

周りの大人達の声が聞こえるようです。「こんなに大勢いるんだよ。こんなものが何の役に立つと言うんだ。」

しかし主イエスは違います。彼は少年のお弁当を感謝して受け、5000人の群衆に配りだしたのです。5切れのパンと2匹の魚は無くなるどころか、増え続け、残りが12のかごに一杯になった、というのです。

主イエスは私たちに問いかけておられます。あなたはあなたの賜物を、あの少年のように、何のてらいもなく捧げるだろうか。恥じらうことなく捧げるだろうか。

お気づきでしょうか。3人の召使いの譬えと5000人を養う物語が、ここでぴたりと合致するのです。

この譬えと物語を前にして私達は喜び、勇んで主イエスに答えることができます。「捧げます。捧げます。私の賜物を喜んで捧げます。」

このひと月心に刻み付けようではありませんか。神は私たちの賜物を受け入れ給い、5000人を養う程に増やしてくださるのです。